

平成28年度地中熱を活用した省エネ技術の開発・普及事業へのご質問についての回答

	質問事項	回答
スケジュールについて		
1	実施要領より、本企画提案公募は国からの交付金の交付決定を前提とした交付決定前の事前準備手続きとありますが、当該交付金の交付はいつ頃決定するものですか。業務内容より、地中熱冷房システム導入適地マップの作成後に各種原位置調査をおこなうものと認識していますが、本業務の契約見込み時期が不明瞭なため、業務スケジュール(提出書類:様式3)の作成に影響します。	現在、国からの交付決定待ちであり、契約予定日は、未定となっておりますが、応募にあたっては、10月3日を事業開始予定日として、スケジュールを作成して下さい。なお、実際の契約日やスケジュールについては、交付決定日の状況を踏まえて、採択候補に決定した企業と調整させて頂きたいと考えております。
2	1次審査結果通知予定日と2次審査以降のスケジュール(審査結果通知日→契約予定日)を教えてください。	また、9月8日に環境再生課のWebサイトにて掲載しておりますが、1次審査通過者には、9月23日を目処に連絡し、9月27日以降に2次審査を実施予定です。
提案書の書き方や審査について		
3	企画提案書の各様式は、複数枚になってもよろしいでしょうか。	枚数指定はございませんので、複数枚でよろしいですが、わかりやすく簡潔な内容でお願いいたします。
4	実施要領、3応募手続き等(1)企画提案書等の提出についてイ企画提案書【様式2】の枚数指定はあるでしょうか。	
5	見積りを作成するにあたり、外注と再委託の違いについて教えてください。	外注費は、再委託費として計上してください。なお、沖縄県の再委託の適正化に係る通知において、委託業務の全部又は一部を契約者自らが実施せず、外注や下請けに発注する場合は「再委託に該当」、必要な物品の仕入れ・借入れは再委託に「非該当」となっています。
6	見積書【様式7】③項にある”謝金”について今回委員会を想定しているのでしょうか。また、謝金を支払うときは何名分でしょうか。	委員会を想定しているわけではありませんが、専門家の方をお呼びするような計画を提案される際は、謝金や旅費の積算をよろしくお願いたします。
7	実施要領より、企画提案審査会について、プレゼンテーションをおこなう担当者の役割は、とくに限定されるものではありませんか(たとえば、説明者は管理技術者以外でもいいか)。また、審査会は何名まで参加可能ですか。	プレゼン担当者は限定しておりません。審査会場への入室人数は、会場の準備の都合により、5名までといたします。
仕様書(案)3.(1)基礎情報の整備について		
8	業務仕様書(案)より、3.業務内容(1)②地中熱冷房システム適地マップの作成について、対象とする地中熱の利用形態は、ボアホールタイプと考えてよろしいでしょうか。	利用形態は、ボアホールタイプにこだわるものではありません。建物の用途やパターンも指定しておりませんので、そのあたりも含めて御提案頂ければと思います。
9	設備設計等に有効活用できるマップとして、地中熱交換量(W/m)や地中熱交換器本数で表示する方法が考えられます。両者とも、建物規模や熱負荷によって変わるものですが、これらは代表する1ケース(標準的なオフィス等)を想定するという理解でよろしいでしょうか？	
10	仕様書(案)3.業務内容>(1)地中熱利用に係る基礎情報の整備>①地中情報の収集及び整理について、柱状図の収集に際して関係機関(沖総局等)への情報提供依頼を発注者よりして頂くことは可能ですか。	関係機関への協力依頼については、柱状図の収集やそれ以外についても対応可能です。
11	仕様書(案)3.業務内容>(1)地中熱利用に係る基礎情報の整備>①地中情報の収集及び整理について、「ボーリング柱状図を電子化すること」とありますが、電子納品要領に基づいた電子化と考えてよろしいでしょうか。	一般的な形での納品を考えておりますが、データフォーマットは、採択候補に決定した企業と調整させて頂きたいと考えております。

仕様書(案)3. (2)地中情報情報の収集・整理について		
12	業務仕様書(案)より、3. 業務内容(2)ボーリング調査による地中情報の収集・整理について、3カ所の調査場所は本業務で作成したマップを参考に選定すると認識しています。このとき、仕様書(案)には記載がありませんが、ボーリング調査や原位置試験の結果について、マップへのフィードバックをおこなうことを想定していますか。	仕様書(案)に記載した内容以外については、より最適と思える案がございましたら、御提案お願いいたします。
13	ボーリング調査による地中情報の収集・整理 熱物性測定以外は、ボーリング孔による原位置試験という理解でよろしいでしょうか？	
14	試験終了後、保護管(VP管)及びUチューブは残置してもよろしいでしょうか？また、Uチューブは次年度以降の地中熱交換器としての流用をお考えでしょうか？	
15	採熱試験として、熱応答試験の装置を利用して循環水を加熱させずに循環させた際の、出入口温度変化を計測する方法を検討しておりますが、熱応答試験とは別の方法が必須でしょうか？	
16	熱応答試験実施時には電源(100V及び200V)が必要となりますが、近隣の建物施設から電源をとれる可能性はありますか？また、建物施設から電源がとれない場合には発電機を利用しますが、24時間運転しても支障はないでしょうか？	
17	仕様書 3. 業務内容(2)ボーリング調査による地中情報の収集・整理にある3箇所とは、「50m×3箇所」または「3箇所のボーリング合計深さ50m」のどちらでしょうか。	地中熱利用に係る基礎情報の整備のため、ある程度深い部分のデータも測定し、今後の参考にしたいと思っておりますが、50m以上でもそれ以下でも構いませんので、最適と思われる情報収集プランの御提案をお願いいたします。なお、比較対象がほしいので、3箇所の場所それぞれで同内容の測定をお願いいたします。
18	コアサンプル試験は3箇所の場所それぞれについて実施することでしょうか。	
19	仕様書 4. 業務実施に際して配慮する事項 (1)熱応答試験の実施についてはボーリング調査を実施した3箇所で行うのでしょうか。	
20	(4) 県内企業の育成の実施は、「沖縄県庁内の会議室で実施」、または、受注者にて会場を準備するのでしょうか。	県内企業の育成について、事業内で行う現場作業への立ち会い機会の創出や事業内容の積極的な広報については、最低限実施していきたいと考えております。それ以外の機会を設けることについては、プランがあれば場所も含めて御提案頂きたいと思っております。なお、沖縄県内のどのような企業を対象に、どのように呼びかけていくかなど具体的に御提案よろしくをお願いいたします。
仕様書(案)3. (3)ヒートポンプ設置に係る検討の実施について		
21	「モデル」とは、次年度以降に実証試験を実施する際の建物が該当しますでしょうか？	仕様書(案)に記載した「モデル」とは、「今後沖縄県内での地中熱活用の普及にあたり参考になる先行事例」のことを意味しております。そのため、実証試験を実施する際の建物というよりは、どのような場所で、どのような設備で、どのような効果を出したのかなど、「今後の参考にできる計画」を策定頂きたいと考えております。